

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 安中市立松井田北中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒379-0211 群馬県安中市松井田町上増田 3602-1
E-mail kita@annaka.ed.jp
Website http://www.annaka.ed.jp/kita/
幼児児童生徒数 男子 24名 女子 14名 合計 38名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、全校生徒38名という小規模校であるが、自然豊かな山村地帯において、協力的な地域の支援を受けながらのびのびと活動している。しかし、地域の高齢化が進むとともに、地域活動の担い手も減少していることから、今後も活力ある地域となるためには担い手としての中学生の存在がカギとなる。そこで、「郷土を愛し、知徳体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒の育成」を学校教育目標として、郷土との結びつきを大切にした学習を展開するとともに、共生社会の実現に向け人権意識の高揚を図っている。

具体的には、ESDの実現に向け、①勤労生産活動 ②地域貢献活動 ③人権学習 を行っている。

① 勤労生産学習

この学習は本校に伝統的に伝わり、特色ある学習活動と言える。学校農園を利用して全校生徒が4つの縦割り班に分かれ、班ごとに話し合っ決めて野菜の栽培を行っている。収穫までの作物の管理は、生徒が主体的に行い、全班共通の作物としてサツマイモの栽培も毎年並行して行っている。

地域の方には年度の始めに耕していただいたり、栽培の仕方についてアドバイスしていただいたりしています。収穫したものは、家に持ち帰って家族とともに食べたり、収穫祭（全校で行う焼き芋）で、栽培し食べることの楽しさを学んだりしている。こうしたことから、より地域の方とのつながりを持つ活動とすることができ、自然とのふれあいを通して豊かな感性を育てるとともに、自然の恵みを感じそれを守っていこうとする意識の高揚をめざす活動であり、働く喜びを味わうことのできる活動になっている。

②地域貢献活動

○クリンクリンの活動

全校生徒が登校時に通学路のゴミ拾いをしてきたり、更に登校後に学校周辺のゴミを拾ったりする活動である。生徒の提案で「クリンクリンの日」という愛称をつけ全校生徒に呼びかけて、実施しており、前日には全校生徒が集まる食堂での給食の時間や帰りの会で運営委員が参加を呼びかけている。月に1度、小学生と協力して活動している。身近な所でできることを継続することが環境を守る上でも大切であることを実感できる活動である。

○ふるさとセンター清掃活動

地域の公共施設である「ふるさとセンター」の池や水路の清掃、庭の草むしりを毎年2学期の始めに全校生徒で行っている。3年生はデッキブラシ等を使い、池の清掃を、2年生は水路を、1年生は施設の清掃や草むしりの作業を行っている。暑い陽射しや滑りやすい池での作業は大変だが、生徒たちは熱心に取り組んでいる。奉仕の心と共に、自分たちの暮らす環境を自分たちの手で守っていこうという意識の定着をめざしている。

③人権学習

5月に前期人権集中学習週間を設定し、全校での人権集会で以下のような学習を行っている。

○人権集中学習週間の意味【生徒会長】

○人権標語作成の呼びかけ【生徒会本部役員】

○「北中人権宣言」の説明【生徒会本部役員】

○絵本『花さき山』の読み聞かせ【生徒会本部役員】

○校長講話

○人権教育主任の話（全員が気持ちよく学校生活を送るために、これから自分
はどのような行動をとるか自分の行動目標を花型のカードに記入）

12月に後期人権学習週間を設定し、前期同様、全校で学習した。

○人権標語・人権作文の代表作品紹介【人権教育主任】

○「北中人権宣言」の確認と見直しについて【生徒会本部役員】

○安中市いじめ防止フォーラムの報告【参加生徒】

○校長講話

○全校道徳『カーテンの向こう』【校長・3学年主任・人権教育主任】

今年度は、学校保健委員会で『認知症サポーター養成講座』を実施した。生徒が住んでいる細野地区でも高齢化が進んでいることから、身近な問題としてとらえ、人権感覚を養うことができた。今後は、生徒が温かい人間関係を築き、人権尊重の精神を高められるよう、人権集中学習週間に限らず様々な場面において継続した取組を行うことが必要である。

①勤労生産学習の様子



マルチ張りの様子



サツマイモの苗植え



サツマイモの収穫



収穫祭で焼き芋に

②地域貢献活動



クリンクリンの活動



ふるさとセンターの池を掃除

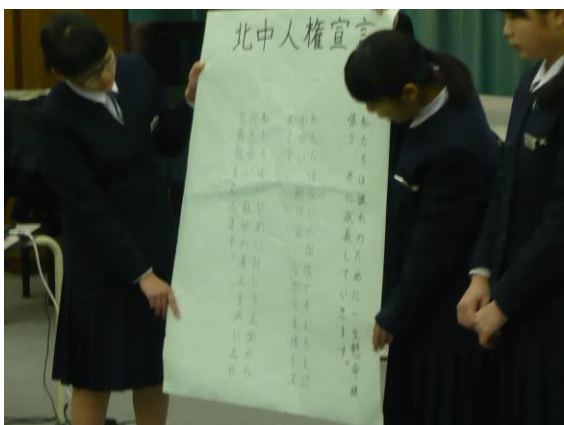
③人権学習



生徒会役員による読み聞かせ



人権カード作成



北中人権宣言の確認



全校道徳の授業



認知症サポーター養成講座



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の中で、教科を横断して身に付けた資質能力を活用し、課題解決的な学習を進めている。

勤労生産学習では、植え付ける作物を自分たちで決め、おいしいものにするための方法を調べながら、丁寧に栽培していた。

人権学習では、年2回人権学習週間を位置づけ、道徳や生徒集会などを通じて集中的に人権について学習した。読み聞かせや全校道徳など、題材を工夫することで、一人一人の生徒が、自分自身の行動をふり返ったり、自分たちがとるべき行動について話し合ったりすることができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各主任を中心としつつ、小規模校である良さを生かして全校体制で活動に当たっている。地域も協力的であり、勤労生産学習では継続的に農家の方による支援を得て畑の整備を行っており、安定した環境の中で活動を進めることが可能になっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校経営評価の中で、人権教育・環境教育の成果を評価検証している。成果）前期人権集会では、生徒会本部役員による絵本の読み聞かせを行った。お互いが気持ち良く過ごすために自分はどうのような行動をとればよいか、生徒一人一人が考える機会となった。勤労生産学習では、学年の枠を取り払い、協力しながら作物を栽培することができた。また、収穫祭の中で自然の恵みに感謝するとともに、自分たちの手で栽培をする喜びを感じることができた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校のWEBページ上で、活動の一部を発信している。また、学校だよりや学級通信の中でも活動の様子を紹介している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

いまのところ、他団体との交流は図っていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

いまのところ、交流を図っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も、「勤労生産学習」「地域貢献活動」「人権学習」の3つを柱として、学習を展開する予定である。学習に際し、教師から与えられた課題に取り組むのではなく、自分たちで状況把握をし、課題解決のための手立てを考え、計画的に行動することができるように、生徒に働きかけ、自主的・主体的な態度や実践力を育成したい。